

2015 年度版オフィシャルソフトボールルール改正点

※文章追加 (P19)

1-51 項 オプション OPTION（選択権）とは、守備側の不正行為により攻撃側の監督に与えられる権利で、次の場合は選択権となる。

1. 無通告交代したプレイヤーが守備でプレイしたとき。
2. 不正投手が投球した球を打者が打ったとき。
3. 打者が不正投球を打ったとき。
4. 捕手が打撃妨害をしたとき。
5. 野手が不正用具でプレイしたとき。
6. 再出場違反したプレイヤーが守備でプレイしたとき。

◎改正理由

本来、2014 年度のルール改正の際、盛り込むべき内容が漏れていたため、今回 1 項目を追加した。再出場違反の〈効果〉を無通告交代と同様の〈効果〉に改めたため、1. と同様の内容を、6. として追加・修正を行った。

※新設 (P21)

1-69 項 テンポラリーランナーTEMPORARY RUNNER とは、捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後 捕手が出塁し、走者となったとき、捕手の代わりに走者となる選手のことである。テンポラリーランナーと交代させるかどうかは、攻撃側チームの選択である。

テンポラリーランナーとなる選手は、捕手の前の打順の者である。ただし、捕手の前の打順の者が走者となっているときは、さらにその前の打順の者がテンポラリーランナーとなる。

◎改正理由

ISF（国際ソフトボール連盟）のルール改正に伴い、JSA ルールにも採用する。改正の趣旨・理由は、二死後、捕手が塁上で走者となっている場合、攻守交代時に準備（プロテクター、レガーズ等の着用）に時間がかかるため、「試合のスピードアップ」の一環として、採用されたルールである。

※新設 (P39)

3-8 項 ユニフォーム及びヘルメットの宣伝広告表示

ユニフォーム及びヘルメットには、宣伝広告（企業名・商品等）に類するロゴマークを表示することができる。ただし、その表示方法は次の通りとする。

(1) ユニフォームに表示できる場所は左袖の一箇所限定し、その大きさは「縦 50 mm×横 120 mm」を超えないものとする。

(2) 表示するロゴマークは全員が同じでなければならない、全員のユニフォームに表示しなければならない。

(3) ヘルメットに表示できる場所は左右どちらか一箇所とし、すべてのヘルメットの同一箇所に表示する。

大きさは「縦 50 mm×横 120 mm」を超えないものとする。

(4) 広告表示は危険性のないように表示し、容易に欠落するような簡素な表示方法は避けること、光を反射させる素材や、ボールをかたどったり、またはボールを連想させるようなデザイン、あるいは公序良俗に反するものであってはならない。

(5) 表示されたロゴマークが不適當であると日本協会が判断した場合は、チームに対して広告表示を停止させることができる。

(6) チーム名、ユニフォーム・ヘルメットの製造メーカー名・ロゴマークについては、(1)～(5)の規定は適用しない。

◎改正理由　すでに理事会で承認された事項であり、それに基づき、掲載した。

※一部削除・修正、内容整理 (P45)

4-6 項 3. 〈効果〉 3

3. 再出場違反は、相手チームから審判員にアピールがあったときにペナルティを適用する。

〈効果〉 3

(1) 監督と違反者が退場になる。ただし、高校生以下の試合の場合は違反者のみ退場になる。

(2) 違反者は正しい交代者と交代する。

1) 守備中にプレイに参与して発見された場合

① 次の投球動作に入る前は、攻撃側の監督にプレイの結果を生かすか、打ち直し（打撃完了前のボールカウントで）をするかの選択権が与えられる。

② 次の投球動作に入ったのちは、プレイはすべて有効である。

2) 攻撃中に発見された場合

① 打撃完了前に発見された場合は、正しい交代者がそのボールカウントを引き継ぎ、それまでのプレイは有効である。

② 打撃完了後、次の投球動作に入る前は、打撃によるすべてのプレイは無効で、違反者はアウトになる。ただし、違反発見前のアウトは取り消さない。

③ 打撃完了後、次の投球動作に入ったのちは、それまでのすべてのプレイは有効である。

(3) 違反者が、さらに出場した場合は、没収試合になる。

◎改正理由

ルールをよりわかりやすくするため、条文の掲載順を整理（従前の（3）を文末に移動させた）。また、文章を一部削除・修正した。（違反者の後の（失格選手）を削除。ときは→場合は に修正）

※一部削除・修正 内容整理（P46～47）

4－7 項 〈効果〉 7

〈効果〉 7 項

（1）違反者は試合から除外され、失格選手になる。

（2）違反者は正しい交代者と交代する。

1) 守備中にプレイに関与して発見された場合

①次の投球動作に入る前は、攻撃側の監督にプレイの結果を生かすか、打ち直し（打撃完了前のボールカウントで）をするかの選択権が与えられる。

②次の投球動作に入ったのちは、プレイはすべて有効である。

2) 攻撃中に発見された場合

①打撃完了前に発見された場合は、正しい交代者がそのボールカウントを引き継ぎ、それまでのプレイは有効である。

②打撃完了後、次の投球動作に入る前は、打撃によるすべてのプレイは無効で、違反者はアウトになる。ただし、違反発見前のアウトは取り消さない。

③打撃完了後、次の投球動作に入ったのちは、それまでのすべてのプレイは有効である。

（3）違反者（失格選手）が、さらに出場した場合は、没収試合になる。

◎改正理由

ルールをよりわかりやすくするため、条文の掲載順を整理（従前の（3）を文末に移動させた）。また、文章を修正した。（ときは→場合は に修正）

※新設（P 49）

4－11 項 テンポラリーランナー

捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、捕手が出塁し走者となったとき、捕手の代わりにテンポラリーランナーを使用することができる。

（1）テンポラリーランナーと交代させるかどうかは、攻撃側チームの選択である。

（2）二死後であれば、いかなる時点でもテンポラリーランナーを使用することができる。

（3）テンポラリーランナーとなる選手は、捕手の前の打順の者である。ただし、捕手の前の打順の者が走者となっているときは、さらにその前の打順の者がテンポラリーランナーとなる。

(注) テンポラリーランナーに間違った選手が出た場合には、正しい選手と交代させる。
(それに対するペナルティはない)

◎改正理由 1－69 項と同様の趣旨・理由

※文章追加・(注) 追加 (P 62～63)

6－9 項 準備投球

1. 準備投球は、初回と投手が交代したとき、1 分間を限度として 5 球以内で、次回からは 3 球以内である。初回と投手が交代したとき以外の準備投球で 1 分を超えたとき、または超えそうなときは、審判は「残り 1 球」と制限することができる。

(注) 攻守交代のとき、捕手の準備が遅れ、また その間に代わりに準備投球を受けるものがいない状態で準備投球が行えず、1 分間を超過しそうなときも、審判は「残り 1 球」と制限することができる。

◎改正理由

ISF（国際ソフトボール連盟）のルール改正に伴い、JSA ルールにも採用した。これも試合のスピードアップを目的としたルール改正である。

※文章追加・修正 (P 65)

7－1 項 次打者

2. 次打者は次打者席内で待機しなければならない。なお、一塁側・三塁側どちらの次打者席で待機してもよい。

◎改正理由

ISF（国際ソフトボール連盟）のルール改正に伴い、JSA ルールにも採用した。これは安全性重視のルール改正であり、打者席から次打者席の距離が近く、次打者席に待機している次打者にファウルボールが当たる危険性があるため、従来、自チームのベンチ側の次打者席しか使用できなかったものを「一塁側・三塁側どちらの次打者席で待機してもよい」と改めた。

基本的には、「安全」の面から改正されたルールだが、左打者が打席に入っていれば三塁側の次打者席、右打者であれば一塁側の次打者席が、「ファウルボールが当たる危険性がある（危険性が高い）次打者席となるが、ルールでは、それを義務づけ・強制しているのではなく、どちらの次打者席で待機してもよいとし、その選択は打者の・自由としている。

※新設（P 68）

7－3 項 打撃姿勢

4. 打者は、投球間にサインの確認や素振りをするとき、打者席内に片足を置いておかなければならない。

【例外】

- （1）フェア、ファウルに関わらず、打者が投球を打ったとき。
 - （2）スイングしたとき。あるいはスイングを試みたとき（チェックスイングを含む）。
 - （3）投球を避けるため、打者席を出ざるを得なかったとき。
 - （4）ワイルドピッチやパスボールがあったとき。
 - （5）本塁上でプレイが行われたとき。
 - （6）タイムが宣告されたとき。
 - （7）投手がピッチャーズサークルを離れたとき。または、捕手が捕手席を離れたとき。
- （注）ISF（国際ソフトボール連盟）ルールでは、打者が **【例外】** の場合を除き、打者席から両足を外した場合、打者に対してワンストライクが宣告される。

◎改正理由

ISF ルールの改正に伴い、JSA ルールにも採用する。7－3 項 打撃姿勢の「4.」として新設する。

これも試合のスピードアップを目的としたルール改正である。ただし、当面は、JSA ルールでは、ペナルティを設けず、このルールを理解・浸透させることを目的とした。このルールを正しく理解・運用することで、試合中、何度も打席を外してサインを確認したりして、試合を遅延させることのないよう、従前以上に試合のスピードアップを心がけ、努めていくことを目的としたルール改正である。